

令和 7 年度

第 3 回 安平町地域公共交通会議 議案

(兼 安平町地域公共交通協議会)

令和 8 年 1 月 14 日(木) 10:00～
安平町役場総合庁舎 大会議室

～会議次第～

1 会長挨拶

2 議事

(1) 安平町公共交通機関（循環バス、デマンドバス、ハイヤー）

利用状況の報告 ····· [P 3 ~]

(2) 国の補助金を活用した事業の実施状況 ·········· [P 6 ~]

(3) 公共ライドシェアの実証報告について ·········· [P 9 ~]

(4) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について ··· [P 13]

(5) 循環バスに係る自家用有償旅客運送の更新登録について ··· [P 14]

3 その他

安平町地域公共交通会議 委員名簿

令和7年6月26日現在（委嘱者変更）

任期：[交通会議] 令和6年9月12日～令和8年9月11日
[協議会] 令和6年9月12日～令和8年9月11日

区分	役職	所属・役職名	氏名
町長が指名する者	会長	安平町副町長	田中一省
室蘭運輸支局長が指名する者		室蘭運輸支局首席運輸企画専門官	佐々木崇史
北海道胆振総合振興局長が指名する者		北海道胆振総合振興局地域創生部 地域政策課長	西崎拓也
あつまバス株式会社の代表	協議会監事	あつまバス株式会社営業部 営業課長代理	新保智之
有限会社追分ハイヤーの代表		有限会社追分ハイヤー運行管理者	及川俊介
北海道旅客鉄道株式会社の代表が指名する社員		北海道旅客鉄道株式会社 総合企画本部 地域交通改革部専任部長	海原邦夫
地域住民の代表		安平町追分地区町内会連合会 会長	真保立至
	協議会監事	安平地区連合自治会 会長	佐々木弘
		早来地区自治会連合会 会長	山下美樹
		遠浅地区自治連絡協議会 会長	小坂亮一
		安平町老人クラブ連合会 副会長	右田時夫
北海道地方交通運輸産業労働組合協議会室蘭地区交通運輸産業労働組合協議会の代表		北海道地方交通運輸産業労働組合協議会 室蘭地区交通運輸産業労働組合協議会 議長代理	工藤幹彦
道路管理者が指名する職員		北海道開発局室蘭開発建設部 苫小牧道路事務所長	石塚達也
		北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部事業室 地域調整課長	高橋圭
北海道警察札幌方面苫小牧警察署長が指名する職員		札幌方面苫小牧警察署 交通第一課長	宮崎翔太
学識経験者		苫小牧工業高等専門学校 創造工学科(都市・環境系) 教授	下夕村光弘
交通会議が必要と認める者		安平町商工会 会長	小林正道

2 議 事

議事（1）安平町公共交通機関（循環バス、デマンドバス、ハイヤー）利用状況の報告

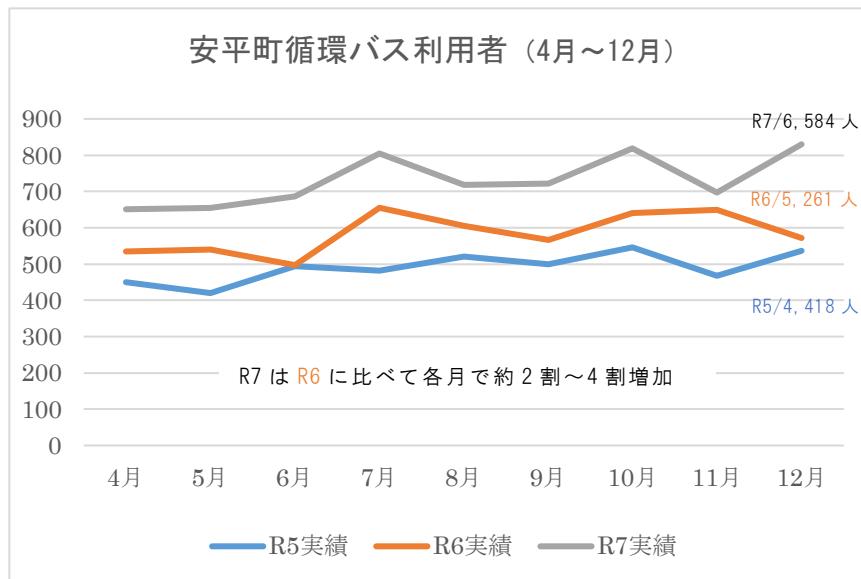
『安平町地域公共交通計画』における各交通手段のうち、循環バス、デマンドバス、ハイヤーの令和7年度利用者数を以下のとおり報告。

○循環バス

R5年度以降、年々利用者が増加。

R7年度は各月とも過去2カ年より利用者が増加し、直近の9カ月間（R7.4月～12月）ではR6年度の同期間に比べて25%増加している。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
循環バス (人)	R5実績	450	420	494	482	521	500	546	468	537	4,418
	R6実績	534	540	497	655	606	567	640	650	572	5,261
	R7実績	651	655	687	805	719	722	818	697	830	6,584
	R6→R7 の増加率	22%	21%	38%	23%	19%	27%	28%	7%	45%	25%

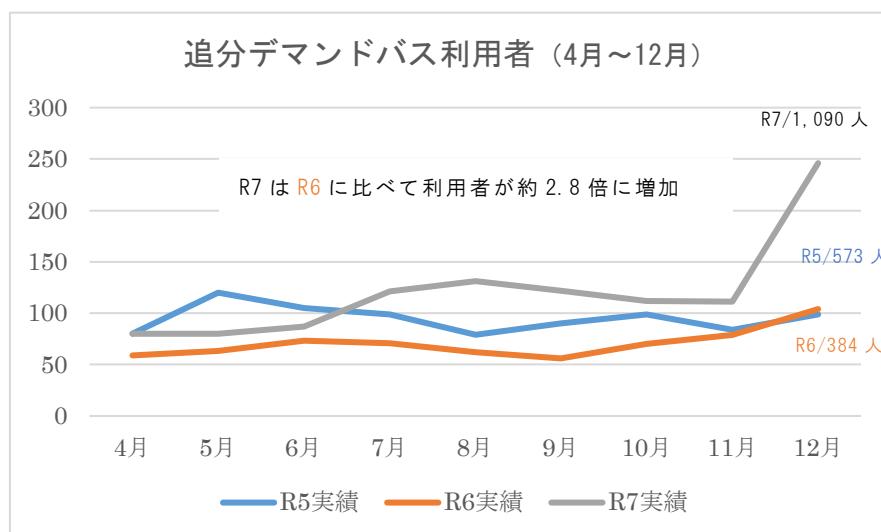


○追分地区デマンドバス

R7年度は、過去2カ年と比較すると各月とも大幅に利用者が増加。

特に、R7.7月以降は増加率が大変高く、直近の9カ月間（R7.4月～12月）ではR6年度の同期間に比べて約2.8倍の方が利用している。

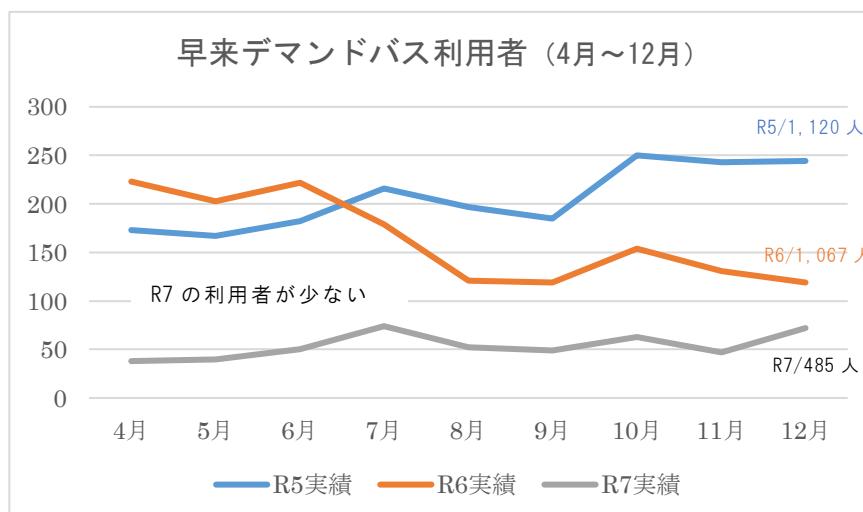
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
追分 エリア (人)	R5実績	80	120	105	99	79	90	99	84	99	573
	R6実績	59	63	73	71	62	56	70	79	104	384
	R7実績	80	80	87	121	131	122	112	111	246	1090
	R6→R7 の増加率	36%	27%	19%	70%	111%	118%	60%	41%	137%	184%



○早来地区デマンドバス

R6 年度の下半期から利用者の減少が続き、R7 年度の利用人数は各月とも R6 年度の半分以下にとどまっている。

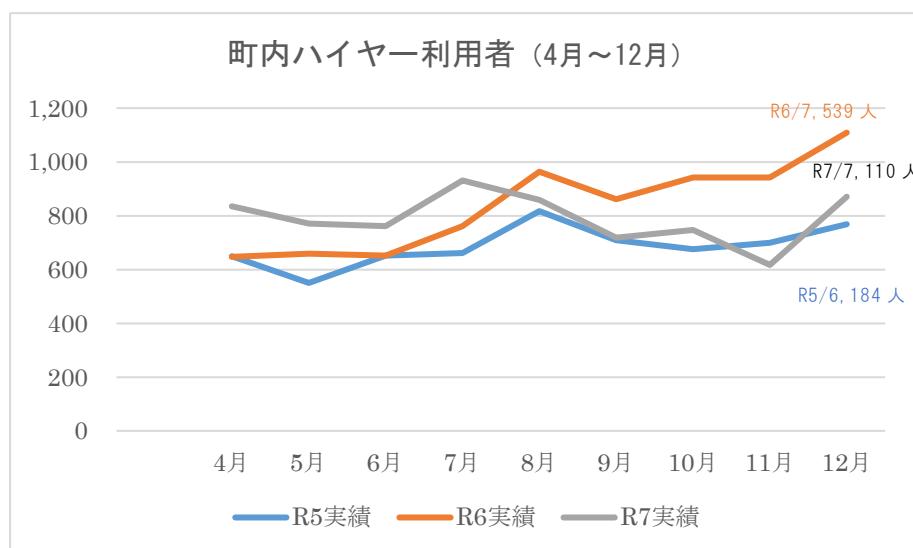
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
早来 エリア (人)	R5実績	173	167	182	216	197	185	250	243	244	1,120
	R6実績	223	203	222	179	121	119	154	131	119	1,067
	R7実績	38	40	50	74	52	49	63	47	72	485
	R6→R7 の増加率	-83%	-80%	-77%	-59%	-57%	-59%	-59%	-64%	-39%	-55%



○町内ハイヤー

R6. 6月から早来地区のハイヤーが再開（それ以前は追分地区のみの運行）。
R7年度は4月～8月の利用者は多かったが、8月以降は追分地区で利用者が減少傾向にある。

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ハイヤー 件数	R5実績	追分	650	550	652	662	817	709	675	700	769	6,184
		早来										
		計	650	550	652	662	817	709	675	700	769	6,184
	R6実績	追分	647	658	638	677	796	699	759	769	907	6,550
		早来				14	85	168	163	183	174	202
		計	647	658	652	762	964	862	942	943	1,109	7,539
	R7実績	追分	664	605	581	695	659	529	543	448	656	5,380
		早来	172	166	180	236	199	190	204	169	214	1,730
		計	836	771	761	931	858	719	747	617	870	7,110
	R7/R6 増加率		29%	17%	17%	22%	-11%	-17%	-21%	-35%	-22%	-6%



・直近の5ヵ月間は追分地区の利用件数が減少傾向。

・R7. 12月に実証運行した公共ライドシェアは、早来地区居住者が利用者の大半を占めたが、同地区的ハイヤー利用者は減少しなかった。

●まとめ

- ・直近の3ヵ年では、循環バスと追分地区デマンドバスの利用者が増加。
- ・R7年度の8月以降、追分地区ではハイヤーの利用者数が減少しているが、その分デマンドバスの登録者が増加。ハイヤーを補完することでデマンドバスの利用者が増えている。
- ・R6年度の下半期以降、早来地区デマンドバスの利用者の減少幅が大きいため、改善策を検討する必要がある。

議事（2）国の補助金を活用した事業の実施状況

今年度、国土交通省の補助金（『「交通空白」解消緊急対策事業』）の交付を受けて以下のとおり事業を実施。

1. 公共交通に関するニーズ調査

【方法】R7.10月～11月にかけて、町内の老人クラブや健康教室、民生委員の集まり等に出向き、アンケート調査や意見交換会を実施。

【対象】公共交通の利用頻度が高く、関心が高い高齢者層を主な対象者に設定し、公共交通が運行している平日昼間に意見交換会を開催。

＜聞き取り調査実施日時＞

期 日	時 間	対 象	場 所	参 加 人 数
9/26（金）	10:00～	遠浅朋友会	遠浅公民館	20名
9/30（火）	10:00～	足腰しゃんしゃん教室	早来学園 まなびお	約30名
10/15（水）	10:10～	安平柏寿会	安平公民館	約30名
10/17（金）	9:50～	老人クラブ花若会	花園若草会館	約35名
10/17（金）	13:30～	一般町民・民生委員	追分公民館	約40名
10/20（月）	11:15～	松葉会	憩いの家	約35名
11/7（火）	13:00～	足腰しゃんしゃん教室	早来学園 まなびお	約30名
11/21（金）	10:00～	かしわ会	みなくる	約30名



民生委員・一般町民との意見交換会（2025.10.17）



かしわ会定例会（2025.11.21）

【主な回答状況】

質問) デマンドバスに乗ったことがありますか？（回答数175）

【乗ったことがある 17.7% / 乗ったことが無い 82.3%】

質問) デマンドバスに乗ったことがある方、利用頻度はどれくらいですか？（回答数30）

【週3~4回 10% / 週1~2回 6.7% / 月数回 33.3% / ほとんど利用しない 50%】

質問) デマンドバスを利用しない理由は何ですか？（回答数122）

【自家用車がある 63.9% / 予約が面倒 10.7% / 時間が決まっている 3.3% / その他 18.9%】

質問) 今後デマンドバスに乗りたいと思いますか？（回答数127）

【乗りたい 21.3% / 使いやすければ乗りたい 49.6% / わからない 22% / 乗りたくない 7.1%】

質問) ハイナーに乗ったことがありますか？（回答数177）

【乗ったことがある 42.9% / 乗ったことが無い 57.1%】

質問) ハイナーに乗ったことがある方、利用頻度はどれくらいですか？（回答数74）

【週3~4回 4.1% / 週1~2回 13.5% / 月数回 40.5% / ほとんど利用しない 40.5%】

質問) ハイナーを利用しない理由は何ですか？（回答数 84）

【自家用車がある 67.9% / 予約が面倒 4.8% / 乗りたいときに乗れない 8.3% / その他 17.9%】

質問) 今後ハイナーに乗りたいと思いますか？（回答数 75）

【乗りたい 24% / 使いやすければ乗りたい 37.3% / わからない 29.3% / 乗りたくない 9.3%】

質問) ハイナーやデマンドバスをより多く利用するために必要だと思うことを教えてください。

◆デマンドバスについて

〔意見〕

- ・予約が面倒で、特に1時間前予約が不便
- ・運行時間が決まっていて利用しづらい
- ・運行便数を増やしてほしい
- ・土日も運行してほしい
- ・予約をしやすくしてほしい
- ・出前登録ができると良い
- ・JRと接続できる時間に運行してほしい
- ・免許返納してもデマンドバスは難しいため、ハイナーを安くして充実してほしい
(予約や登録の方法がわからない)
- ・運行範囲が限定されていて利用しづらい
(安平から早来に行けない)

◆ハイヤーについて

[意 見]

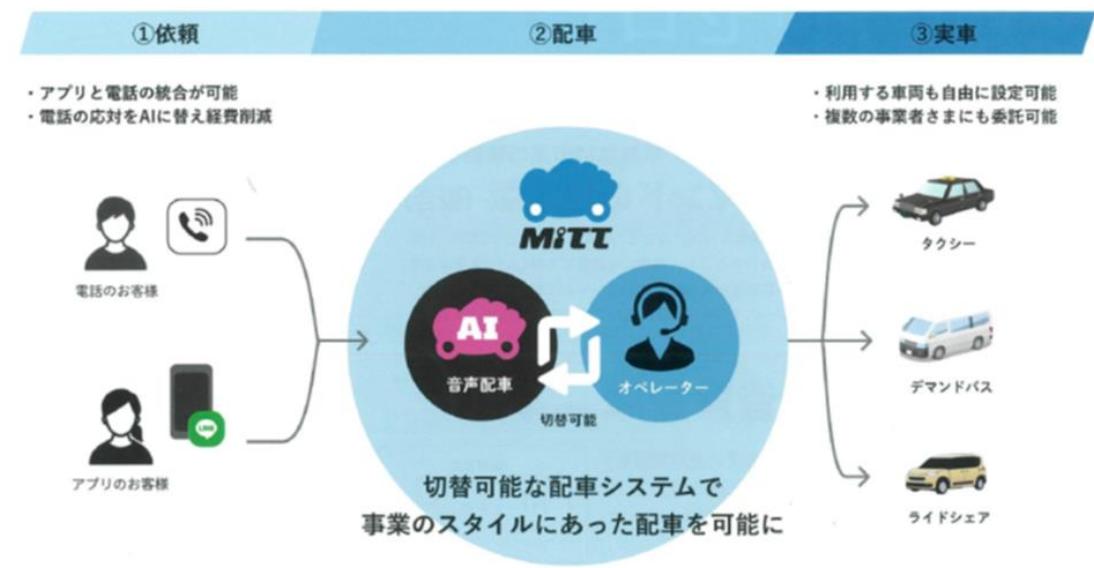
- ・JRの時間に合わせたハイヤーの営業
- ・毎日営業してほしい（ハイヤーに限らず動いている公共交通があると安心）
- ・ハイヤーの台数を増やしてほしい
- ・ハイヤーを遅い時間（22時）まで営業してほしい
- ・荷物が多いときや緊急時にハイヤーを呼んでも来ないときがあった
- ・料金を少しでも安くしてほしい
- ・30分前に予約できるとよい
- ・予約できない実態があるため改善策を検討してほしい
- ・人手不足の対応としてライドシェアを検討した方が良い
- ・苦小牧や千歳の病院への乗合のハイヤー等の運行



聞き取り調査の結果は、今後のハイヤー・デマンドバス・ライドシェアの運行体制の充実に反映させていくとともに、令和8年度に計画最終年を迎える『安平町地域公共交通計画（R4～R8）』の改定時に基礎データとして活用する。

2. 配車システム MITT の開発

AIによる料金算出や自動音声機能を備えた配車システム「MITT」を安平町版に開発して公共ライドシェアの実証に導入し、試行した。



【○メリット】

- ・予約に合わせた配車ルートを瞬時に生成できる
- ・タクシーメーターが無い状況で料金を算出するには欠かせないシステム

- ・システムに組み込まれたナビゲーションが目的地まで音声で誘導するのでドライバーの負担が減る
- ・前後の予約や運行時間に配慮しながらAIが運行スケジュールを組むため、受付担当の負担が軽減される
- ・受付担当が不在になる時間帯は、AIによる自動音声で対応が可能

MITT タブレット画面 →

【▲懸案事項】

- ・AIによる自動音声での受付の場合、発音や会話スピードによっては会話がスムーズに進まない場合がある
(↑施設名などを事前にAIに覚えさせることによって改善の余地あり)
- ・システムを通して配車管理する特質上、運転手が乗客から予約を直接受けることが難しい(←LINEでの予約開始により運転手が代行できる可能性有)



今後、可能な範囲で改良を行いながら、デマンドバスやハイヤーへの導入の可否やタイミングについて検討していく。

議事（3）公共ライドシェアの実証報告について

1. 期 間 令和7年12月10日（水）～12月27日（土）
平日・土曜／8:30～19:45
日曜／8:30～16:30

2. 場 所 町内一円

3. 利用者数 18日間でのべ101名

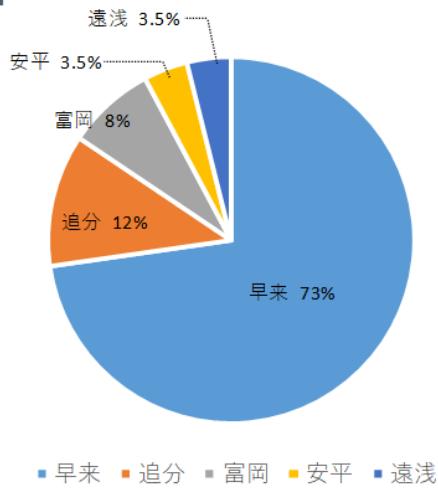


↑公共ライドシェア利用の様子（2025.12.17）

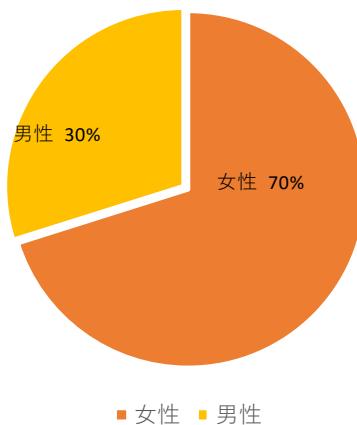
◇利用者の属性

- ・公共ライドシェアの利用者の居住地は、「早来地区」在住者が73%と最も多く、次いで「追分地区」在住者が12%、「富岡地区」は8%、「安平地区」と「遠浅地区」がそれぞれ3.5%。
- ・利用者の性別は女性が70%、男性が30%と女性の割合が多い。

【利用者居住地】

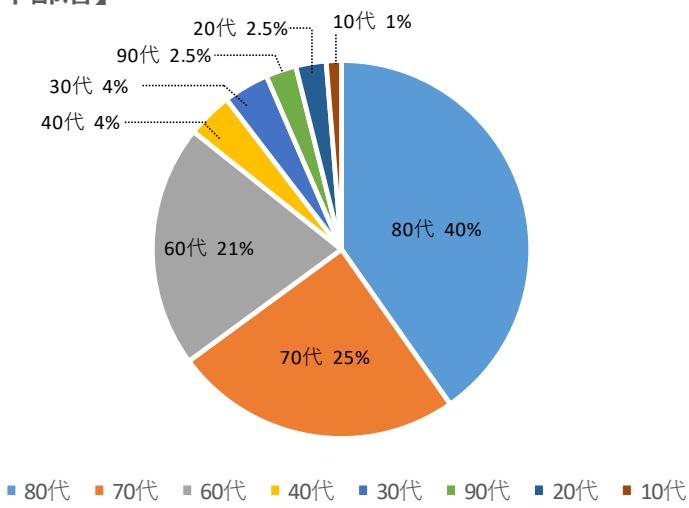


【利用者性別】



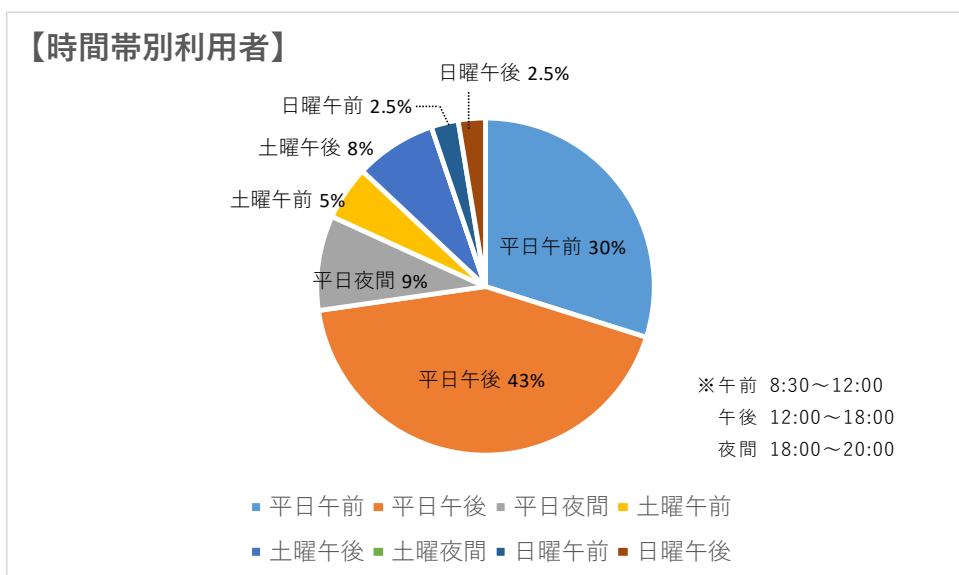
- 利用者の年齢層は、80代が一番多く40%、次いで70代が25%、60代が21%。60代～90代が88.5%を占め、自家用車を持たない高齢者が主な利用者層。

【利用者年齢層】



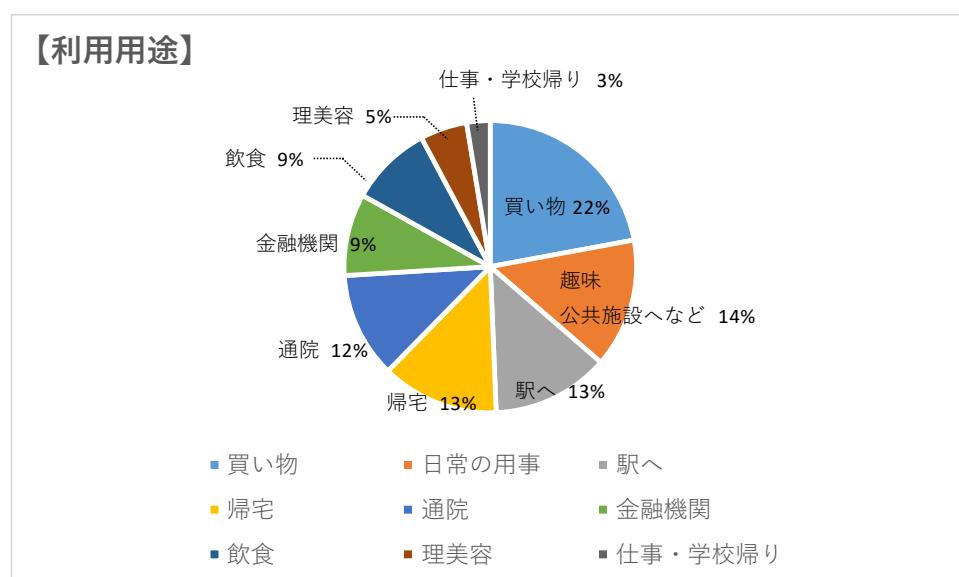
◇時間帯別利用者

- ・「平日午後」が最も多く43%、次いで「平日午前」が30%、「平日夜間」が9%。
平日利用者が82%と8割を超える。
- ・土曜は、午前・午後を合わせて13%（土曜はハイヤーも営業）。
- ・日曜は、ハイヤーが休日のためライドシェアのみとなるが、午前・午後合わせて5%と利用者は少なかった。



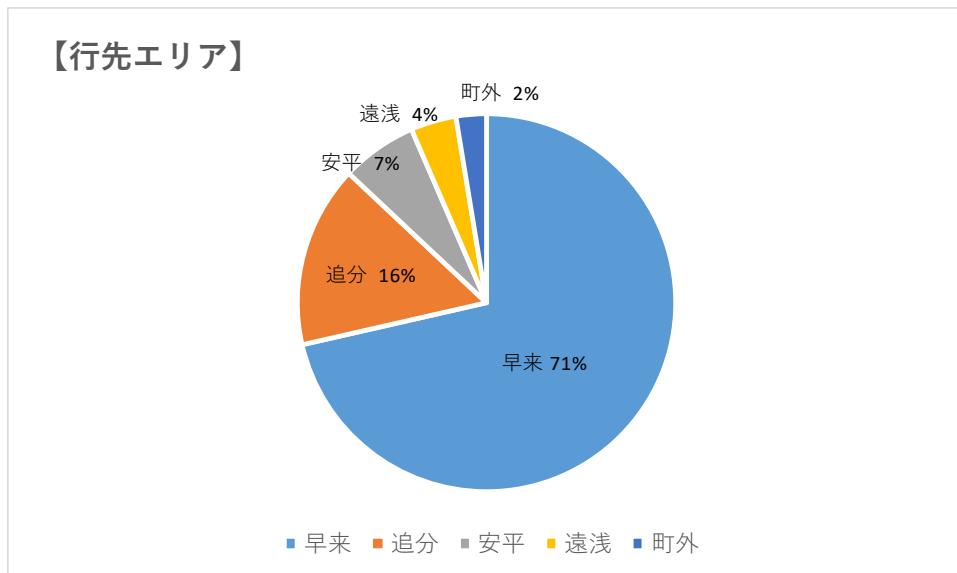
◇利用の用途

- ・利用の用途としては、買い物が22%と最も高く、趣味や公共施設などへの利用（日常の用事）が14%、JR駅への利用が13%、通院が12%と続く。
- ・高齢者が日常生活に利用するケースの割合が大きかった。



◇行先エリア

利用者の行先エリアは、早来が 71%を占め、次いで追分が 16%、安平が 7%、遠浅が 4%。町外は 2%にとどまった。



◇ハイヤーの補完

今回の実証期間中、ハイヤー予約の重複によりライドシェアに振り替えられた案件は 43%。日常的に、ハイヤーの予約が重複することが多く、その補完としてライドシェアが機能した場面が目立った。



◆まとめ

実証ではあったが、18 日間でのべ 100 名を超える利用があり、需要の高さを感じられた。特に、平日昼間の高齢者による町内の近距離移動で需要が高かった（全体の 73%）。一方で、土日は利用者が少なく、日曜日は公共ライドシェアのみの運行ではあったが利用者は全体の 5%であった。

公共ライドシェアは、交通手段として有効であることは明らかになったが、移動距離が長い利用者には金額的負担が大きくなる（デマンドバスは料金一律）。また、利用者ニーズが高い平日昼間は、ハイヤーやデマンドバスが運行している時間帯でもあるため、両車輌も含めた中で一体的に改善策や方向性を検討し、その結果をふまえて公共ライドシェアの運行形態を決定していくことが必要と思われる。

議事（4）地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

◇概要

- ・安平町の循環バスは、国の補助事業（地域公共交通確保維持改善事業 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）を活用し、平成31年4月1日より運行を開始している。
- ・この補助金を受けて実施する対象事業については、毎年度、各協議会において事業の実施状況を確認する流れになっている。
- ・今回は、令和7年補助年度（令和6年10月1日から令和7年9月30日）までの1年間について、目標の達成度合いなどを確認する。

◇以前からの改善内容

令和7年補助年度（期間は上記のとおり）では、町民意見や乗降調査の結果をふまえ、以下のとおり循環バスの自由乗降区間を新たに拡充した。

- ①青葉豊栄幹線の一部（青葉会館付近～白樺付近の直線区間）
- ②追分安平線の一部（花若入口バス停～追分南公営住宅付近の直線区間）

◇計画と達成状況

計画項目	目標数値	実績	達成状況
①循環バスの利用者数	年間 5,200人以上	年間 7,747人	達成
②循環バスの経常収支率	4.8%以上	6.8%	達成
③循環バスに対する町負担割合	81.9%以下	79.3%	達成

- ・1点目の「循環バス利用者数」については、目標の5,200人を超えて7,747人となった。利用者の声を反映した改善やPR効果が現れたものと評価できる。
- ・2点目の「循環バスの経常収支率」、3点目の「循環バスに対する町負担割合」においては、いずれも利用者数の増加に伴い運賃収入が前年比で19%増えたことが要因となり、目標の達成に至った。

R7 補助年度	
経常収入	1,546,200円
経常費用	22,830,500円
経常収支率	6.7%
R6 目標値	4.7%以上

R7 補助年度	
経常収入	1,546,200円
経常費用	22,830,500円
国庫補助	3,180,000円
町負担額	18,104,300円
町負担割合	79.3%
R6 目標値	81.2%以下

今回は全ての項目で目標を達成できたものの、燃料費や人件費などの経費高騰という状況は続くことが想定されるため、今後も健全な運営をめざし、自助努力を重ねながら町民の利用促進をはかっていく。

※詳細については、別添「資料1」のとおり

議事（5）循環バスに係る自家用有償旅客運送の更新登録について

令和8年3月31日をもって登録有効期間が終了する循環バス運行事業に係る自家用有償旅客運送の更新登録を申請したいので、委員の承認を求めます。

（1）循環バス運行事業の概要

- ・循環バスは、都市への移動手段である鉄道（駅）や地域間幹線バス（停留所）と接続する支線バス（フィーダー系統バス）であると同時に、安平町内の遠浅・早来・安平・追分各地区の地区間移動を確保するために運行している。
- ・月曜日から金曜日まで平日の5日間、1日10便運行しており、町民や観光者等を問わず、どなたでも乗車することができる。
- ・運賃は、乗車1回につき200円（小学生は100円）の定額とし、他の公共交通サービスとのバランスを考慮して設定している。
- ・運行時刻や経路は、他の公共交通サービスとの役割分担と共に念頭に置いて、乗車の目的や利用シーンを想定して設定している。都市部ほど頻繁な便数確保は難しいものの、限られた車両をより効率的に活用できるように努めながら運行している。
- ・過去の利用実績につきましては、3Pのとおり。

（2）自家用有償旅客運送の種別等

- ・運送種別 交通空白地有償輸送
- ・運送主体 安平町
- ・路 線 安平町の4地区循環線
起点：道の駅あびら（安平町柏が丘49番地1）
終点：早来源武（安平町早来源武275番地）
主な経由地：道の駅前～早来駅前～早来源武
運行距離：38.3km
- ・使用車両 バス3台（マイクロバス型1台、ワゴン型2台）
- ・登録期間 令和8年4月1日～

3 その他

循環バス、デマンドバス「利用満足度調査」、「乗降調査」について

以下のとおり調査を実施し、利用者の満足度や利用状況を把握する。

I 満足度アンケート調査

- ◇目的 『安平町地域公共交通計画』では、達成度評価指標の 1 つとして「循環バス・デマンドバスの利用者の満足度」を設定しているため、利用者からアンケート形式で満足度を回答してもらう。
- ◇期間 令和 7 年 12 月 22 日（月）～1 月 30 日（金）
- ◇対象 循環バス、デマンドバス
- ◇方法 アンケート用紙を運転手から乗客に配布し、降車時までに記述してもらう

II 循環バス乗降調査

- ◇目的 日常的な利用者の乗降状況を把握するとともに、停留所等の検討に向けた基礎データとする
- ◇期間 令和 8 年 2 月 2 日（月）～2 月 27 日（金）
- ◇対象 循環バス
- ◇方法 利用者の乗降場所を運転手が記録する

A-I配車 ライドシェア始動

安平町実証実験 デマンド交通視野



安平町公共ライドシェアの車両を見送る及川町長（右から2人目）や今氏社長（同3人目）ら

【安平】町が運用する公共ライドシェアの実証実験が10日、始まった。町と協定を結ぶシステム開発会社「CICAC（シカク）」（東京）が人工知能（A-I）を活用した配車システムを開発し、将来的にはデマンド交通やハイヤーの乗り入れも見据える。

全国7カ所で展開中の同社のA-I配車システム「MITT（ミット）」を、安平町の人口や地理条件に合わせて調整。車両は町の公用車1台を使い、町職員や公募した町

民のドライバー8人体制で運用する。町とシカクは3月に連携協定を結んでいた。

10日に町内で出発式が開かれ、午前9時からの利用者を迎える車を見送った。及川秀一郎町長は「関係者と協力して、充実した仕組みをつくることができた」、シカクの今氏一路社長は「持続的な公共交通になつていけば」と語った。

実証実験は27日まで。

町内での利用に加え、町内から出発、町内に到着のどちらかであれば、誰でも利用可能で初乗り600円から。受付時間は月曜～土曜は午前8時半から午後7時45分まで、日曜は午前8時半から午後4時15分まで。予約は電話（050・1792・9310）へ。氏名や乗降場所などを伝えることで利用できる。

（斎藤雅史）

公共ライドシェアの実証開始

安平町地域交通協議会

安平町地域公共交通協議会は10日、町が運営主体となるて一般車両に利用者を乗せて有償運行する「公共ライドシェア」の実証実験を開始した。27日までの間、町民ドライバー8人が交代で公用車1台に乗り、町民を中心とした乗客の移動を担う。

町によると、循環バスやデマンドバス、ハイヤーは平日夜間や日曜、祝日に運行しておらず、ハイヤーは利用が重複して乗車できない交通空白の時間帯が発生している。6月に国土交通省の交通空白解消緊急対策事業の交付決定を受け、ライドシェアの実験に取り組む。配車システムは、202



職員らに見送られ、出発した公共ライドシェア車両

4年3月に持続可能な地域公共交通の推進に向けた連携協定を締結したシステム開発会社のCICAC（シカク、本社東京）がAI（人工知能）を取り入れて開発したシステムを活用する。10日には出発式が行われ、ドライバーが運転する車両が町職員らに見送られ、乗客の元に向かった。

公共ライドシェアの利用方法は、予約番号に電話をかけ、指定した場所で乗車後、車内で料金を支払う。予約番号は町ライドシェア予約番号 050-1792-9310。（審査実）

及川秀一郎町長は「将来的に先進的なシステムが効率的に機能することを期待している」と話した。